

# Column

## 環境コラム

### 今月のコラムニスト

●松田 雅央 (まつだ まさひろ)

1966年盛岡生まれ。カールスルーエ市在住ジャーナリスト。1992年東京都立大学工学研究科大学院修了、1995年渡独。趣味はサイクリング。自然豊かな農村地帯を走る爽快さが好き。<http://www.umwelt.jp/>

## 国際建築展示会「IBAハンブルク」

ドイツ北部のハンブルク州で大規模な国際建築展示会「IBAハンブルク」が開催中です。人口5万5千、面積35km<sup>2</sup>のヴィルヘルムスブルク地区を会場に2007年から2013年まで、官民合わせて約50件のプロジェクトが実施されます。

名称は建築展示会ですが、実際の内容はまちづくりプロジェクトと書いた方が近いでしょう。プロジェクトは地区全体で実施され、住宅、事務所、教育からエネルギーまで幅広い施設を対象としています。期間が長く、住民参加や都市計画と強い関連を持つ点もまちづくりに通じる特徴です。

例えばプロジェクトのひとつに、小学校と高校の跡地を利用した「教育総合センター」建設があります。ここは「世界への扉」をモットーに、多目的センター、幼稚園、環境教育センター、スクール&ビジネスセンターなど、0歳児から成人まで利用できる新たなマルチカルチャー施設です。2007年11月には本格的な設計コンペに先立ち子供版コンテストが行なわれ、子供たちの参加意識を刺激しました。コンテストでは小学1年生から中学生までのグループがアイデアを絵や模型で提案し、優れた内容はセンターに反映される予定です。

当然、各プロジェクトで建設される建物は省エネや緑化などエコにおいても卓越したものでなければなりません。主催者(ハンブルク州)はさらに一歩進んで都市の温室効果ガス排出削減を目指しています。その一例がバイオマスや太陽光を使用するコジェネレーション(熱伝供給)施設「エナジー・ブンカー」です。このプロジェクトがとりわけユニークなのは第二次世界大戦当時に建設された3万人収容の巨大退避壕跡を改築利用することで、高さ30m、4つの円柱が並んだ特異な形の建造物は壁の厚さ2~3.5mの鉄筋コンクリート製です。モニュメントとして保存されてきた戦争の遺物がこれを機にクリーンエネルギーの供給センターへと生まれ変わります。

このように建築展示会とまちづくりを融合させる手法は、ドイツ国内でこれまでも何度か行なわれてきました。IBAハンブルクは総額1億ユーロ(ハンブルク州が9割、欧州連合(EU)が1割負担)の予算を組み、参



(IBAハンブルク公社の責任者ウリ・ヘルバーク氏(右)と広報のザビーネ・メッツガー氏(左)。インフォメーションセンターに置かれたヴィルヘルムスブルク地区の模型の前で。)

加する各プロジェクトに費用の5~15%を補助します。

7年を超える長期プロジェクトを統括するのはIBAハンブルク公社です。責任者ヘルバーク氏によればプロジェクトの主テーマは「多様な住民の集うメトロポリスの建設」「居住・仕事・余暇のバランスがとれたメトロゾーンの整備」「都市の持続可能な発展と気候変動の抑制」の三つになります。

そもそもヴィルヘルムスブルク地区が会場に選ばれた理由は、市の中で社会問題が特に深刻だからです。幾つもの中州を埋め立てて造成された低地のため、1962年の大洪水では多数の死者を出しました。現在は移民が34%を占め18歳以下の若年層が22%を超えるなど、低所得者の多い地区として知られています。

しかしながら同地区のこういったキャラクターは、視点を変えれば発展するポテンシャルの高さにも繋がるはず。「ここは40以上の国籍の住民が住むマルチカルチャー地区です。多様な文化を背景とした魅力的で活気あるまちに変身する可能性を秘めています」(ヘルバーク氏)。

IBAハンブルクは開催から4年が過ぎ、折り返し時期を迎えました。ハンブルク州の教育相の言葉を借りれば「ペンをスコップに持ち替える時」。各プロジェクトは計画段階を終え、今後、具体的な建設作業が本格化します。

■「グリーン ホライズンズ」の作成・配信は

**ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社**

ホームページアドレス <http://www.damj.co.jp/>

お問い合わせ先 0120-442-785

(受付時間: 営業日の午前9時~午後5時)

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報および著者個人の見解を含む第三者コメントをもとにドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が作成しておりますが、内容の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。また、これらは当社の運用方針、投資判断とは一切関係ありません。上記情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。データや見通し等は記載時点のものであり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまでも参考として記載したものであり、その銘柄または企業の株式等の売買を推奨するものではありません。